

五十一年ぶりの同級会

星立区 上野光雄（住吉町出身）

ほくほく線の手窓から、豊かな稲穂と小型コンバインの動きに、故郷の秋をながめながら、直江津駅に、九月初旬、五十一年振りに開催された「直江津町立直江津小学校・昭和二十八年卒（六年三組）」は恩師の佐藤義純先生を囲み、三十余名の出席者で賑わった。

八月の始め、皆さんに会いたいね、「義純先生お元気かしら」の楽しい案内に、早速、幹事の内山君に電話。「先生お酒は」の問いに、「すこく元気で俺達が負ける位強い」に即座に行き、よろしくの一言。この級は三年生から義純先生を担任として卒業するまで続き、現在二名程の物故者と数名の所在不明者があるもの五十余名が確認され、今回初めて同窓会となった。

会は定刻午後一時より始まる前の一時間、自己紹介やら近況を語りあえる時間

が設定され「オマン、〇〇さんでしょう」と語りかける女性軍に比べ、男性陣は思い出せなく、その記憶力に完敗、しかし体つきが完全に変化していても目のあたり幼い頃の面影があり、会の始まる頃には五十年の時間差は無く、全員、昔の級友のまま、幹事の内山君より今回の経緯を聞き、先生の現在の暮し振りやら往時の顛末を聞き、懇親会へ。

遠く沖繩から駆けつけた茂子さんを始め、各地からの参加者と地元の皆さんとの割合は半々位で、会場のホテル・ハイマートの心づくしに「飲み、食らい、そして、語らい」と実に楽しく、先生より「今度は糸魚川の奥座敷、笹倉温泉でやろう」の声に、大きな楽しみが増えた。

戦後間もない時期での入学、そして卒業と余り楽しかった思い出は少ないものの、教師なりたての先生との交流は以降

の学生生活とは比べにならない程、強烈に覚えていて、今では大問題となる「愛の鉄拳」を受けた男子生徒は皆無でなかったのではないかと。

それからの楽しい語らいも、また次回にと約し、散会した。



(昭和28年卒業) 直江津小学校6年3組同級会

平成16年9月4日
於 ホテルハイマート